



2013-2014 中部部報 第2号

2014年6月30日発行

国際会長主題	「全ての世界に出て行こう」“Once More We Stand”
アジア会長主題	「未来を始めよう、今すぐに」“Start Future Now”
西日本区理事主題	「志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう。」
中部部長主題	「長所を活かして生き生きと！」

2013-2014 年度 中部役員・委員

*太字の役員・委員が部報第2号原稿を執筆（代筆を含む）。

【部役員】		【クラブ会長】	
部 長	平口 哲夫(金沢犀川)	金 沢	幸正 一誠
直前部長	荒川 文門(名古屋南山)	名 古 屋	川口 恵
次期部長	大西 博昭(四日市)	名古屋東海	山村 喜久
書 記	北 肇夫(金沢犀川)	名古屋南山	小林 滋記
会 計	川村 孝治(金沢犀川)	四日市	竹中 浩
代 議 員	荒川 文門(名古屋南山)	名古屋プラザ	島崎 正剛
代 議 員	平口 哲夫(金沢犀川)	名古屋グランパス	坂野 清治
監 事	長谷川和弘(名古屋東海)	津	千賀 直道
		金沢犀川	澤瀬 諭
【事業主査】		【常置委員会】	
Yサ・ユース	早川 直希(四日市)	ホームページ委員長	荒川 恭次
地域奉仕・環境	鈴木 一弘(名古屋東海)		(名古屋グランパス)
E M C	五島 八郎(名古屋)	ホームページ管理者	平口 哲夫(金沢犀川)
ファンド	数沢 輝夫(金沢)		
交 流	森本 征夫(名古屋南山)		
広 報	大島孝三郎(名古屋プラザ)		
メネット	澤瀬 紀子(金沢犀川)		
		【中部事務局】	
		事務局長は北書記が兼務、平口部長・川村	
		会計・澤瀬部会準備委員長が事務を分担。	

【中部部会準備委員会】

委員長	澤瀬 諭(ホストクラブ 金沢犀川)
委 員	川村 孝治・北 肇夫・竹中 丈晴・平口 哲夫・三谷 信三 (ホストクラブ 金沢犀川)
	伊藤 仁信・数沢 輝夫・幸正 一誠・澁谷 洋太郎・清水 淳・西 信之・山内ミハル・
	山本 達也 (協力クラブ 金沢)

1. 部長主題はどこまで実現できたか



中部部長 平口 哲夫（金沢犀川クラブ）

2013-2014 年度の中部活動は、「長所を活かして生き生きと」（円滑なコミュニケーションをもって奉仕活動に励み、事業の質的向上を会員増強につなげよう）という部長主題を掲げてキックオフしたのですが、結果はどうでしょうか。中部全体としては会員減少に歯止めがかからなかったのは事実ですが、これは今期のせいばかりとは言えません。会員増強はもっと長期的な取り組みによってしか実現できない課題だからです。

実際、中部 EMC200 の立ち上げは、2014 年 1 月 18 日に開催された中部 EMC セミナーを踏まえて、同年 3 月 21 日の第 2 回中部評議会において「中部 EMC200 推進委員会」の発足を承認していただき、具体的な活動は次期中部部長のもとで開始するという段取りをとりました。

そもそも今年度の中部部長主題は、私が所属するクラブで日頃心がけていることなので、少なくともその範囲ではかなり実現したと思っております。また、不得手なことについては他クラブのご助言やご支援を得ましたので、中部全体としても各人・各クラブの長所が活かされたと言えましょう。中部の部会・障がい者アート展・EMC セミナーの実施は、まさにその良い例です。しかし、コミュニケーションという点では不十分なことがいろいろありましたので、反省しています。私自身、「長所を活かして生き生きと」活動してきたつもりですが、力不足を痛感しています。お支えくださった皆様に心から感謝申し上げます。

2. ご支援、ご協力に感謝し、中部の発展を祈る



書記 北 肇夫（金沢犀川クラブ）

皆様の温かいご支援をいただき、何とか中部書記を務めさせていただきました。今期、中部として取り組んだ主な活動は、金沢での「部会」、金沢と名古屋での「評議会」や「障がい者アート展」、名古屋での「EMC セミナー」、「部長のクラブ公式訪問」などが挙げられます。「YY フォーラム」は、日程調整で難航し、残念ながら開催が見送られました。

「部会」開催にあたっては、1 年半前から会場探しに奔走しました。その企画・運営などでは、地元の金沢クラブ・金沢犀川クラブのワイズやメネットの得意分野でパワーを発揮、また、各地から多くの方々に参加していただき、成功裏に終えることができました。

「部長のクラブ公式訪問」で部長に随行した際には、各クラブで温かくおもてなしいただきました。また、各クラブのそれぞれの奉仕活動への情熱を感じ取ることができました。

金沢での「中部第 1 回障がい者アート展」および「アール・ブリュット名古屋展（中部第 2 回障がい者アート展）」の開催につきましては、谷本久美子メネット事業主任のご指導、谷川修ワイズ（名古屋クラブ）のご尽力をはじめ、各クラブのワイズ・メネットの皆さんのご協力を得て、良い成果をあげることができました。

この 1 年、中部の皆さんから大きなご支援・ご協力をいただきましたことに感謝いたしますとともに、中部の更なる発展をせつに祈念いたします。

3. 多重会計に四苦八苦

会計 川村 孝治 (金沢犀川クラブ)



細かいことが苦手で大雑把な人間である私に、はたして中部会計という大役ができようかと悩むまえに、メンバーの少ない金沢犀川クラブの会議で、私が担当するということが既に決定していました。とにかく領収書をもって金銭出納帳さえキッチリ記入すれば何とかなるだろうと思って引き受け、スタートしました。

金沢犀川クラブ、クラブファン、中部、中部部会の各会計という四つの会計を担当することになりましたが、最近、郵便局では振込み詐欺対策のためか、預金通帳をつくるのは各種の書類提出等が必要なので、結局、中部と中部部会の預金通帳を一つにまとめざるを得ませんでした。その一つにまとめた預金通帳を部会が終わった段階で線引きし、中部の会計と中部部会の会計それぞれについて中間決算書を作成し、金沢犀川クラブが出資した中部部会準備金の残りを犀川クラブの預金通帳に戻しました。

評議会など中部の集まりではお茶・お菓子などを提供して和やかな中で議事を進めるほうがよいと思いますが、男所帯の配慮の無さや、私自身仕事との兼ね合いで行事に参加できなかったために、配慮に欠けたことを反省しております。しかし、わずか6人のクラブでありながら中部部会のホスト役をこなすことができた要因には、既に退会されてしまった方々を含む会員の皆様の長年にわたるファンのおかげで、経済的な負担に耐える備えがあったということも挙げられると思います。

4. 厳しい条件下での献身的なお働きに感謝！

監事 長谷川 和宏 (名古屋東海クラブ)



平口部長は、中部のクラブとメンバーに対し「長所を活かし、生き生きと！」活動することと、「円滑なコミュニケーションに支えられた事業」を求め1年間中部をまとめてこられました。

多くの難題を抱えている中部にあって、すべてのクラブが会長を先頭に各事業主査が支えられ、限られた時間や労力や資金にもかかわらず、持ち味を有効に発揮して長所を皆なで再発見できた1年だったように思います。

各クラブで多くの予備軍や新顔を交えた活動が生まれ、会員増強の基礎作りは進んでいます。反面、計画が進まなかったり、会員目標未達のままとなったりしています。

また、限られた予算に工夫が図られ、無事その執行が行われたことに安堵しています。

是非、次期の大西部長の下で事業と会員の両面で成果につなげていってほしいと思います。厳しい条件の中で、献身的な働きをされた中部役員はじめ仲間の皆さまに心から感謝を申し上げます。

5. Yサ・ユース事業の推進

Yサ・ユース事業主査 早川 直希（四日市クラブ）



YMCA サービス・ユース事業主任の方針を中心に早期献金の達成を目指して活動し、中部9クラブ中6クラブに目標達成していただきました。ありがとうございました。次期は9クラブ100%達成を目標に活動していただきたいと思います。

YMCAの支援活動はYMCAかみさわ保育園の開園等、地道な活動が実を結んでいます。名古屋YMCAの移転の関係で3月21日に予定していたYYフォーラムを中止した事が非常に残念です。根の上キャンプ場整備を始め、YMCAユースリーダーの育成支援、キャンプ、バザーなどに多数参加・協力いただきました。

私の力不足から1年間の事業がうまく運営されなかった所もあり、大いに反省の1年間となりましたが、皆様のご支援とご協力に感謝いたします。

6. 多様な取り組みこそ、ワイズの魅力

地域奉仕・環境事業主査 鈴木 一弘（名古屋東海クラブ）



ワイズメンズクラブの要となる事業は、YMCAサービスと地域奉仕事業です。両事業の区分には若干曖昧な所もありますが、各クラブで独自の展開、多様で熱心な取り組みがなされた1年でした。主な地域奉仕事業・環境事業は以下の通りです。

- ・金沢クラブ：親子いも煮会（10月、メネット会主催）
- ・金沢犀川クラブ：新桜坂緑地の里親制度によるボランティア活動（通年）

- ・金沢クラブ・金沢犀川クラブ協働：クリーンキャンペーン（5月・10月）、ユニセフ ハンドインハンド募金（12月）、たけのこ掘り体験（4月）
- ・津クラブ：さくらさくら事業所訪問（12月）、心豊苑・新年餅つき大会（1月）
- ・名古屋クラブ：名古屋キリスト教社会館園児・家族潮干狩り招待（5月）
- ・名古屋南山クラブ：フェロシップ イン ナンザン（11月）
- ・名古屋プラザクラブ：ハモンドオルガンコンサート（年2回）
- ・名古屋グランパスクラブ：「木を植えた人」を聴く会（10月）

中部全体としては、3.11地震・津波・原発により愛知県へ避難されている方々への支援（「ふるさと交流会」）も継続的に行われています。

最後になりますが、各クラブによるCS、TOF、FF、ロールバックマラリア、東日本大震災等の各資金へのご協力に感謝申し上げます。

7. 夢を現実に—中部 200 の達成へ向って—



EMC 事業主査 五島 八郎 (名古屋クラブ)

EMC 事業主任及び部長の方針では、中部 200 名を達成するための実行組織として今期中に中部 200 推進委員会を立ち上げる計画でした。そのためには主査として何をクラブに呼びかけるべきか、迷いはありませんでした。歴史に学び、各クラブで例会出席率 100% 達成を真剣に目指すことだと。かつて 37 か月連続 100% 出席を達成できた名古屋クラブでは、一体何をどうしたのでしょうか。

1 月には中部 EMC シンポジウムでは出席者の熱心な経験交流が行われました。にもかかわらず、126 名でスタートした中部は今 118 名。他部で増勢が続く中、まことに残念です。新入会員がないか、新入会員が少ない活動には、安定は生まれますが、刺激が少なく、出席者も少なく、出会いも少ない。したがってクラブの魅力も半減するという悪循環となります。

大半のクラブが奇妙なほど年間を通じて毎月の例会出席率が低レベルで安定化しています。クラブの明日を共有し合っていないのではないかと心配されます。今こそ初心に帰ってクラブ内の情報交換を密にし、相互の信頼を高め合うことが切に望まれます。

中部 200 の達成への道のりは決して容易ではありません。足元をしっかりと見つめてこそ、中部 200 の夢が現実のものとなると確信した 1 年でした。主査として十分な働きができませんでした。今度はこの経験を糧に自クラブで頑張ります。

8. BF100%達成は 5 クラブ、JWF 献金は 2 クラブ・2 個人



ファンズ事業主査 数沢 輝夫 (金沢クラブ)

ファンズ事業主題「ファンズ事業に真剣に取り組むことで、国際協会の一員であることを認識しよう。」(ファンズ事業主任 長壽和子) に基づき、次の事業方針と事業と目標を立てました。

1) 事業方針：①国際協会の一員であることを意識し、BF の重要性を理解していただき BF 献金ゼロのクラブをなくす。②ファンズへの認識を新たにし、ファンズの意義を理解することで自己意識をたかめ、決められた目標額を達成する。

2) 事業と目標：BF 事業は、全ワイズメンによって積み立てられた基金で、国際役員や BF 代表の公式旅行の費用にあてるために、「使用済み郵便切手を集めて換金する方法」と「現金による方法」がある。EF 事業は、ワイズダム発展のために会員やクラブなどからの寄付、遺贈、献金などによって集められた基金。JWF 事業はクラブの記念行事、個人の冠婚葬祭などを記念しての献金を受け付けた基金。

3) 事業の結果：①BF 事業：BF 資金として一人当たり 1,400 円 (使用済切手、現金合算) を 100% 達成したクラブは金沢、名古屋東海、名古屋南山、名古屋プラザ、金沢犀川の 5 クラブで、未達成のクラブは名古屋、四日市、津の 3 クラブでした。また、使用済み郵便切手を集めて換金したクラブは金沢、名古屋の 2 クラブでした。BF 献金 0 のクラブがあったことは残念でしたが、各クラブで努力されたことに心から感謝いたします。②JWF 事業：名古屋東海、金沢犀川の 2 クラブから献金がありました。また、個人では渡辺真悟ワイズ (名古屋)、下村明子ワイズ (名古屋グランパス) の 2 名から献金がありました。

9. IBC・DBC 交流調査と各クラブ合同例会等の報告



交流事業主査 森本 征夫 (名古屋南山クラブ)

年度初に各クラブを対象に IBC・DBC の交流調査を実施、また各クラブにおける合同例会等の報告もしていただいた。

【金沢クラブ】6月7日～8日滋賀蒲生野クラブ訪問。【名古屋クラブ】11月30日～12月2日韓国ソナンクラブ訪問。4月30日熱海グローリークラブ30周年参加。例会に卓話講師として他クラブメンバーを迎えた。9月例会：四日市クラブの大西里江メネット、10月例会：大阪高槻クラブの森本榮三ワイズ、11月例会：宝塚クラブの石田由美子ワイズ、2月例会：京都トップスクラブ8名、3月例会：大阪サウスクラブの恵美奈博光ワイズ、5月例会：和歌山紀の川クラブ3名。【名古屋東海クラブ】8月12日奈良クラブ納涼例会参加。【名古屋南山クラブ】9月12、10月10日名古屋プラザクラブ、12月14日名古屋クラブとの合同例会実施、11月22日～24日台北ベータークラブ訪問、1月11日台北ベータークラブよりワイズ・メットが例会に参加。【名古屋プラザクラブ】9月12、10月10日名古屋南山クラブとの合同例会実施。【四日市クラブ】津クラブとの合同例会。【名古屋グランパスクラブ】11月9日京都東稜クラブ訪問。【津クラブ】四日市クラブとの合同例会。【金沢犀川クラブ】12月19日金沢クラブとの合同クリスマス特別例会。

上記以外にも様々な交流活動がなされているだろう。IBC・DBCの未締結クラブがあるので、今後は未締結クラブゼロを目指して啓蒙活動と参加を募ることに努めていきたい。

10. 情報収集に絞って主査活動に努力



中部広報事業主査 大島 孝三郎 (名古屋プラザクラブ)

加藤信一事業主任の事業主題「内外の人に情報を伝えよう、人とのつながりを強めよう～各ワイズの情報を共有しよう～」を念頭に置き、情報の収集に焦点を絞って主査の活動に努めてきた。今期初めに、クラブの活動に関してマスメディアに取り上げられたものがあれば報告してほしいと各クラブ会長に依頼した。現在までに具体的に該当したものは次の2件である。

①2013年11月2日の第20回名古屋YMCAチャリティラン、②2013年12月23日開催の第11回クリスマスキャロル・イン・JRタワーズガーデン。いずれも中日新聞に写真付で掲載された。2件ともワイズメンズクラブ単独開催ではなくYMCAとの協働のものであり、しかも回を重ねてきたビッグイベントである。

その他、2014年4月22～27日にアール・ブリュット名古屋展(ワイズメンズクラブ中部第2回障がい者アート展)が名古屋市民ギャラリー栄で名古屋YMCAとワイズメンズクラブの共催で、中日新聞社も名義後援者の一つとなって開催されたが、取材までには至らなかった。なお、2014年4月名古屋YMCAが名古屋市緑区神沢に「YMCAかみさわ保育園」を開設したが、これもマスコミに取り上げられたとは聞いていない。YMCAからマスコミへ取材依頼したかどうかはまだ確かめていないが、スタッフが少人数という制約の中での急遽開設であったことから、マスコミと接触することも難しかったのではないかと思う。もっと働きかければよかったのだが、私の力不足で今期実行できたことはあまりにも少なかったと反省している。

1 1. ワイズメンとメネットが協同して事業達成

メネット事業主査 澤瀬 紀子（金沢犀川クラブ）



メネット事業どころかワイズメンズクラブについてもよく理解していなかったもので、主査を引き受けることについては不安だけでしたが、平口哲夫中部部長や金沢犀川クラブの澤瀬諭会長を始めとする皆様方のご支援のおかげで、主査の仕事は曲がりなりにも終わることができました。体調不良のため欠席を余儀なくされた中部部会に際しては、金沢クラブのメネットの方々のリードにより、メネットパワーを結集して受付、メネットアワー、中部第1回障がい者アート展、懇親会の金沢踊りなどを円滑に成し遂げることができたと承っております。

また、アール・ブリュット名古屋展（中部第2回障がい者アート展）につきましても、名古屋クラブの谷川修ワイズにご尽力いただくとともに、西日本区の谷本久美子メネット事業主任を始めとするメネットの皆様のご助言とご協力をいただいたことにより、首尾よく実施することができました。高瀬稔彦理事と谷本メネット事業主任が名古屋展会場に来られる4月23日(水)には、平口中部部長と澤瀬会長も会場を訪問し、さらに会期最終日の4月27日(日)には私も澤瀬会長と共に会場に出掛け、後片付けのお手伝いをいたしました。お世話いただきました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後のメネット事業の新たな発展をお祈りいたします。

1 2. ワイズの醍醐味は人との出会い

金沢クラブ会長 幸正 一誠



金沢クラブのワイズとメネットの皆様のご支援と忍耐とをいただき、無事今期も会長職を務めることができました。皆様に深く感謝申し上げます。今期は「ワイズ銀河鉄道の旅」をテーマに「多くのワイズと出会い、多くのワイズと握手を交わそう」を会長主題としてワイズライフを楽しんでいただこうとキックオフしました。

8月には金沢犀川クラブがホストとなり、中部部会が金沢で催され、“金沢都H星”に“特別停車”。今期の会長主題を実践していただく最良の星でした。やはり、ワイズの醍醐味は人との出会いですね。12月のクリスマス例会にはクラブ基地の“KNGH星”へ“一時帰国”、7名のゲストをお招きし、メネット各位のお力添えを得て金沢犀川クラブとの合同例会を楽しみました。美味しい料理と楽しい会話はワイズの醍醐味！ 1月には“メネット星”より「上げ膳据え膳」パーティーへの招待状が届き、“臨時停車”。3月には“マウントミューチャマ星”の“女王”へ“臨時停車”を打診したところ、快くご承諾いただき、コンダクター企画「雪を愛でる会」を催しました。この“銀河鉄道”の“車内冷蔵庫”に貯蔵中の、仙台広瀬川クラブより贈られた「大吟醸」を開封し、皆で美酒を味わいました。4月にも、“メネット星”より「花よりダンゴ」の会のお誘いがあり、美味しい料理と美味しいワインそして楽しい会話の、ワイズの醍醐味が全て揃った楽しい“メネット星”への“臨時停車”をしました。

3年間、会長として重職を預かりました。1年目はさっぱり役務がわからず、2年目は楽しさがわかり、3年目は本当に役務を楽しみました。中部の皆さん有難うございました。

1 3. 出会い、ふれあい、響きあい、前へ進もう

名古屋ワイズメンズクラブ会長 川口 恵



タイトルに掲げた会長主題で始めた 2013-2014 年度は、魅力的なワイズの方々を中心に卓話講師をしていただきました。小谷充子メネットのネパール山、四日市クラブ・大西コメットのケアカンパニア STEP、高槻クラブ・森本榮三ワイズのマザーテレサ、宝塚クラブ・石田由美子ワイズのアロハスピリットとフラ、京都トップクラブ・高坂会長以下 8 人による「EMC の話」、大阪サクラクラブ・恵美奈ワイズの「ミャンマーとマングレー YMCA」、紀の川クラブ生駒会長の「高野山と熊野古道の話」です。

他の行事・出来事：各地の部会へのメンバー参加。8 月、名古屋 Y とソウル Y の学生交流でソウルの学生を迎えて歓送迎会。10 月、皆から敬愛された鈴木武二ワイズの死去。11 月、チャリティアンと親クラブである大阪クラブ 85 周年記念例会、韓国ツアンクラブ 公式訪問。12 月、メネットを中心に愛美の会クリスマス会。4 月、神沢ブラッチの献堂式、京都キャピタルクラブ 30 周年記念例会、熱海ガローリークラブ 30 周年記念例会、中部アール・ブリュット名古屋展。5 月、社会館の児童を招待して潮干狩り。6 月、当期在籍 50 年を迎える木本ワイズ、久保田ワイズ、小谷ワイズへの感謝。行事や事業に関しては、リーダーとの交流や、ユースコンボケーション関連(参加者の話)、東北震災支援(現地訪問や訪問された方の話)は今後の課題です。

名古屋クラブも出会い、ふれあい、響きあい、少しでも前へ進んだ 1 年となっていると感じていただけたらと思います。

1 4. 「何にでも Challenge」の一年を振り返って

名古屋東海クラブ会長 山村 喜久



会長主題「何にでも Challenge」を掲げて一年、クラブ会員の皆さまに支えられながら松本新会長にバトンタッチする時を迎えることができ、改めて感謝申し上げます。方針のトップに掲げたテジョンクラブとの交流が実現できず、国際交流 (IBC) はいろいろ難しいなと実感しました。日頃からのクラブ同士のコミュニケーションが少ないと呼吸がうまく合わないものですね。

根の上キャンプ場の整備は「根の上を愛する会」の浅野猛雄会長と協議し、メインロッジの改修に着手しました。YMCA のプログラムにもクラブとして積極的に参加、チャリティアンでは柴田洋治郎君が実行委員長として大きな働きをし、チャリティワークでは東日本大震災の被災地の復興を願い、浅野君の努力で神沢ファミリー YMCA の開設にあわせたコース設定をしました。神沢ファミリー YMCA には完成披露のお祝いとしてクラブからピアノを贈呈。第 37 回「平和の使者クリスマスカードコンテスト」では、東海クラブの協賛プログラムとして会長が「東海ワイズメンズクラブ賞」を特賞者に授与しました。ピースフルサンデーは南山 YMCA、南山幼稚園、南山クラブ、グランパスクラブとの協力により行われ、クリスマスキャロル in セントラルパークでは橋爪圭子メネットが合唱の指導と指揮に貢献なさいました。

クラブ運営にはメンバーのご協力のおかげで年間の出席率 90%以上を達成、卓話内容も充実した一年となりました。ユースを例会に招き、特に 4 月には東北へ研修ツアーをしたインターアクトクラブの高校生の報告会を行なったこと、また、11 月の「救缶鳥プロジェクト」の秋元義彦氏のお話も印象に残りました。

15. 恒例に加えて新規のプログラムも実施

名古屋南山クラブ会長 小林 滋記



会長を始めるにあたり何とか例年通りのプログラムは行いたいな
と思い、メンバーの協力の下、クラブの活動では YMCA のスタッフ
やリーダーにも手伝っていただきフェローシップ「いも掘り」、リー
ダーを招いての夏と新年の交流、例会では名古屋クラブやプラザク
ラブとの合同例会、YMCA の活動では夏祭りに始まりピースフルサン
デー（バザー）、チャリティーラン、クリスマスキャロルインタワ
ーズ、そして新しい神沢 YMCA の開所等々に参加し、お手伝いいたし

ました。

中部の活動は金沢での部会、二回の評議会、中部 EMC セミナーそして西日本区メネッ
ト事業でもあるアール・ブリュット名古屋展（ワイズメンズクラブ中部第2回障がい者ア
ート展）等々のプログラムを行うことができました。

私達のクラブではメンバーの近藤ワイズのご好意で畑をお借りし、南山農園と称してイ
モ等を作るといって招待プログラムを長く行なっています。最近では外部の幼稚園もイモ掘
りに来てくれます。また名古屋 YMCA も時々農園を利用していました。さらに新しい試み
としてこの春からは名古屋 YMCA 野外活動の子供達がプログラムで定期的に農園に来て
くれています。準備など大変なこともあります、子供達の元気な笑顔を見られるのは大
きな喜びです。野外活動グループの名前は「ピーナッツ」と言うそうです、そこで次回は
ピーナッツの植え付けを行うそうです。上手く出来るとよいですね。

16. クラブのホームページ回復と EMC セミナー事例報告を中心に

四日市ワイズメンズクラブ会長 竹中 浩



諸般の事情により四日市クラブから活動報告の原稿をいただけませ
んでしたので、中部部長が責任をもって代筆させていただきます。

四日市クラブのホームページには、毎月発行されるブリテンが掲載
されていますので、活動状況の概要を知ることができます。ブリテン
には、クラブの活動だけでなく、三重 YMCA の活動についても紹介さ
れています。写真が多数掲載されており、クラブ独自の行事はもとよ
り、部会や区大会などの写真も見ることができます。同クラブの HP
は、担当者の退会により、一時期、休止状態にありましたが、新たな

担当者を得て 2013-2014 年度中に回復したのは幸いです。

8月31日に金沢で開催された第17回中部部会には、大西博昭次期中部部長、郷戸正光
次期中部書記、松岡紀生副会長、早川直希中部 Y サ・ユース事業主査、若松芳弘ワイズ、
伊藤広海ワイズ、塩川彰彦ワイズ、以上6名が参加しました。

また、1月18日に名古屋で開催された 2013-2014 中部 EMC セミナーでは、若松ワイズ
が「近年のメンバー拡大」について事例報告しました。この事例報告は、クラブ会長、EMC
事業主査、西日本区大会実行委員長を務めたときに有言実行したことをふまえており、「中
途半端な多人数になると、まだ組織力が生まれず、求心力による連帯感とか参加意識など
が薄れるデメリットも潜在するとの懸念もあります」ので「新クラブチャーターを検討す
ることがベストではないか」とのご提案には、傾聴すべき点があると思います。

17. 増員ならず

名古屋プラザクラブ会長 島崎 正剛



7月の浩養園での総会を兼ねた懇親会。8月には金沢での中部部会にメンバーのほとんどが車に分乗して参加。夜の金沢香林坊の居酒屋で海の幸に舌鼓。1年のスタートに気合が入る。開田高原ではサマーキャンプの受け入れのお手伝い。恒例だったLDの子供たちとの釣りを兼ねた川遊びがなくなったのは寂しい。9月は南山ワイズとの合同例会。ここ2年くらいいろいろとお世話になっている。南山ワイズも長い間大切に育ててこられた行事を、少人数ながらきちっと開催されておられるのには頭が下がる。我クラブでは年に2回位の老人介護施設へのオルガン音楽慰問のみとなってしまった。11月は恒例のチャリティランのお手伝い。我クラブの小澤幸男ワイズは、長年、音響関係を中心にサポートしてきた。今では8名となってしまったが、いろいろな行事に重要な仕事で貢献している。12月のクリスマスキャロルは、名古屋駅での冬の風物詩ともなっている。もっと評価されてもいいと思うが、アピールが下手なのかなと反省。年を越すとそろそろ次年度のメンバーの役割分担が気にかかる。昨年度の西日本区大会の準備と設営で我クラブは力を使い果たした感があり、脱力感に襲われる。よく頑張れたと思うが、成瀬理事を亡くしたのはかえすがえす悔やまれる。

年が変わって期の初めの思いがよみがえるも、進展なし。2月、3月と次年度の準備が始動。27年目の我クラブ。5年後の姿が思い描けない。何としても30年にたどり着きたいと思いを新たにすも、結果を出せずに1年が終わる。5年後を見据えて我クラブの存続危機を回避したいという思いで会長職を拝受したが、難しかった。

18. 来期に繋ぐために

名古屋グランパスクラブ会長 坂野 清治



今期の会長主題を「若い世代にワイズを広めよう」とし、まず最初に当クラブのfacebookを立ち上げ、広く一般の方に当クラブの活動内容を知っていただくとともに、一般の方が参加してみたいと思うような卓話やイベントを企画し、一年かけて活動してきました。

当クラブの将来に向けての重要課題として3年計画でのクラブメンバー増強を掲げましたので、それに向けての第一歩になったかと思えます。

また、今回で2回目となる東北被災地訪問をいたしました。昨年名古屋でご講演いただいた陸前高田市長にもお会いし、その後の復興状況を伺いましたが、復興が進んでいない現状を目の当たりにして、クラブとして継続的に支援をしていかなければならない事を再確認いたしました。今期から東北支援物品販売を、西日本区大会を始め各地で継続的に行なっています。現状について名古屋方面のクラブにも合同例会等で報告させていただき、来年4月予定の東北被災地訪問では、クラブの枠を超えて参加者を募ることができたらと思っています。

今期で達成できなかった課題が沢山ありましたので、次期の松原誠会長に繋ぎ、継続したクラブ活動になればと祈念いたします。

19. 充実した奉仕活動

津クラブ会長 千賀 直道



今年度「広がれワイズの輪」という会長主題のもと、EMCの拡充を計りましたが、残念ながら新会員はありませんでした。今年の活動が来期に少しでも花咲き実ることを期待しています。

さて今年度の実施事業のうち、例年行なっている事業としては10月の第二水曜日から数日かけて実施した北海道十勝じゃがいも・かぼちゃ販売によるファンドづくりがあります。じゃがいも1.4トン、かぼちゃ270kgを完売し、このファンドを利用して、津市にある障害者入所施設「マツテヤ心豊苑」の入所者やご家族の方々、ボランティア、職員さんと一緒に1月11日に新年もちつき大会を実施しました。ここ20年来の例年行事なので、入所者の皆様との仲がより一層深まったような気がします。

新規の実施事業としては、12月23日、亀山市にある「サクラサクラ障がい者デイサービスセンター」で開催したクリスマス会があります。利用者の皆様と当方が持参したケーキやお菓子を食べながら手品を楽しんだり、歌を歌ったり、クイズをしたりして楽しいひと時を過ごしました。また、4月22日から27日まで名古屋市民ギャラリーで開催された西日本中部地区の障がい者アート展（アール・ブリュット名古屋展）に、津クラブの関係する障がい者団体や個人から合わせて5点の作品を出展しました。その会場へは作者自身も見学に来られ、受付のボランティアをされていた名古屋東海クラブの野村靖子メネット等とも直接お話する良い機会に恵まれ、本人が大変喜んでいた姿が印象的でした。

20. 小さいながらもきらりと輝るクラブかな

金沢犀川クラブ会長 澤瀬 諭



会長職2年目の今期も後一ヶ月足らずで終えようとしております。

会員6名の小さなクラブで「小さいながらもきらりと輝る」クラブ運営を目指してスタートしました。当クラブから中部部長を輩出し、ホストクラブとして中部部会の開催に向けてメンバーが一丸となって各人が得意とする分野で能力を発揮し、西日本区の役員の方々や中部各クラブの参加、協力のもと中部部会を成功させることができました。

あらためて感謝申し上げます。また、中部部長の公式訪問に随行して中部のすべてのクラブ例会に参加をし、多くの学びの機会を得ることができました。

クラブ運営については、メネット事業「障がい者アート展」開催を契機として、障がい者施設「ひろびろ作業所」との結びつきができ、ささやかではありますが支援の輪がひろがり、金沢YMCAにもクラブ20周年を迎えた記念に10万円の献金とYMCA集会室トイレの改修工事の費用の一部12万円を負担することができ、その他、金沢YMCA「わいわい農園」の事業にも取り組み、少しずつではありますが成果が得られるようになりました。例会出席率100%を昨年に続き達成し、ブリテンの発行やホームページの更新、第一例会の案内チラシの作成、第二例会の議案書・議事録の作成、及び地域奉仕・清掃活動等、木目細やかに実施することができましたが、ただ一つ当クラブの重要課題であるメンバー増強には今一步のところで実現しなかったことは残念な結果でした。

今期は多くの機会を得て、大変忙しくも実り多き1年であったと振り返っております。

2 1. 情報格差を縮めよう



中部ホームページ委員長 荒川 恭次(名古屋グランパスクラブ)
この一年を振り返って感じたこと。それは、最近いろいろな方面で「格差」という言葉がよく使われていることです。「格差社会」「所得格差」等々、Wikipediaによれば「格差(かくさ)とは、同類のもの間における、程度(水準・資格・等級・価格・格付け、レベル)などの差や違いである。また、社会問題の一つとしての意味合いを含めても用いられる語」とあります。ITの世界でもこの格差がここ最近広がりつつあります。いわゆる「情報格差」です。①パソコン(PC)を活用

してインターネットの世界から積極的に情報収集するひと。PCを持たず、全くインターネットの世界に興味を持たない人。あるいは、②スマホ(スマホ)を使用し、Facebook、LINE等活用してコミュニケーションを深める若者たち。ガラケー(ガラパゴス携帯)を持ち、音声通話だけを行う中・高齢者。①の場合も②の場合も保有する情報量には大きな差が生じています。20年程前ならばインターネット無しでも何ら生活に影響はなかったでしょう。しかし、この先は生活の標準仕様として大きく位置づけられると思います。今でもFacebookを活用すれば、一年に一度大会でしか会うことのない遠方のワイズ仲間の、今その時の活動状況がわかります。これに必要な道具は、キーボードの無い、携帯できる安価なタブレット端末があれば良いのです。この先、機会あれば、「情報格差」を縮めることができる技を紹介したいと思います。スマホを持たず、携帯は使い慣れた電池持ちの良いガラケーのままで、リズナブルに情報を手に入れる方法をお教えします。ただし、まずは中部ホームページにアクセスして情報を得ていただくことが前提となりますが。

《編集後記》

この第2号の原稿提出期限は6月14日(土)、つまり第17回西日本区大会の初日だったので、大会終了後に記事にできるようなことは掲載していません。実際、原稿の多くは期限までに送られてきました。2013-2014年度中部の活動の詳細については、中部HPの2013-2014中部部長通信や各クラブのHPをご参照願います。(TH)

2013 - 2014 中部部報 第2号

発行日：2014年6月30日

編集・発行：ワイズメンズクラブ国際協会西日本区中部
2013-2014事務局 金沢犀川クラブ

〒924-0072 石川県白山市千代野西6-7-3

澤瀬 諭 気付

TEL/FAX: 076-276-7822 E-mail: nrj35245@nifty.com

中部部長 平口 哲夫 TEL: 076-264-0220 E-mail: koshomachiruka@yahoo.co.jp

中部書記 北 肇夫 TEL/FAX: 076-245-2386 E-mail: tkita27@dune.ocn.ne.jp

印刷：(株)谷印刷 〒921-8022 金沢市中村町28-14

TEL: 076-242-7267 FAX: 076-247-5181 Email: pikapika@lilac.ocn.ne.jp
